

「飯舘村の母ちゃんたち」通信 No20

2024年4月発行

人の命と自然のいのちの尊さを決して忘れない

岡戸 良子（映画「飯舘村の母ちゃん」制作支援の会代表）

2011年3月11日、東日本大震災が起きてから13年が経ちます。この厳しい悲しい事実を後世に残すために、古居みずえ監督による映画2作品を皆様のご支援にて完成することが出来ました。こうした長きに亘るご支援を改めて映画制作支援の会を代表してお礼申し上げます。

また、「飯舘村 ベこやの母ちゃん—それぞれの選択」は、第3回石垣島湘南国際ドキュメンタリー映画祭・ジャーナリズム大賞、トロント国際女性映画祭・第19回長編ドキュメンタリー部門で大賞を受賞したことも感謝のうちにご報告いたします。

震災から13年が経過していますが、飯舘村の復興はされたのでしょうか？ 飯舘村のHP内によると0歳から14歳幼少人口が激減し、一方65歳人口は増加し、帰村者の高齢化率は60パーセント前後で、帰村率は25パーセント程度で、村内居住者も少ない現状と記載されています。

そして飯舘村の農業、畜産は3.11からの長期避難、長期農業休止が余儀なくされ、さらには農業者の高齢化と後継者の激減による厳しい状況が続いています。私は飯舘村の復興より却って衰退を感じてしまいます。原発事故が起きてから飯舘村は、自然も、そしてそこに住む人たちの日常の全てが一変してしまいました。

日本一美しい村として登録されていた飯舘村は、もう存在していません。そして震災前は3世代同居の大家族が一般的で、地域の人たちとの交流などで互いにいたわり合いながら暮らす幸せな人間関係も存在していました。しかし現在はどうか？ 人災とも言える原発事故が起きてしまったことで自然破壊が起き、このような平和な日常が奪われたことを、私たちは決して忘れてはならないと思います。

「飯舘村 ベこやの母ちゃん—それぞれの選択」に登場する三人のお母ちゃん達の生きる姿勢は、こうした厳しい現実を受け入れ、前向きに明るく生きていこうとする強い人間力を感じ、同じジェンダーであることへの誇りを感じます。

2024年1月1日マグニチュード7.6の能登半島沖地震が起きました。石川県珠洲市には、関西電力が建設に着手した珠洲原子力発電所がありますが、2003年市民運動の勝利により凍結されています。私たちも、この二作目となる「飯舘村 ベこやの母ちゃん—それぞれの選択」の自主上映会を引き続き行い、人の命と自然のいのちの尊さを国内外に伝えていきたいと思えます。そのためにも皆様の変わらぬご支援を引き続きお願いし、ご挨拶いたします。



飯舘村 ベこやの母ちゃん
ーそれぞれの選択

忘却と無関心に抗いたい

古居 みずえ (映画監督・ジャーナリスト)

「飯舘村 ベこやの母ちゃんーそれぞれの選択」は東京を初め、横浜、大阪、京都、福島、広島等での劇場上映を終え、昨年 2023 年 6 月からは全国各地で自主上映会が開かれています。ここでは古居監督がトークで参加した上映会を中心に報告いたします。また並行して行なわれた、ガザでの緊急事態を受けての上映会について、パレスチナの状況についても報告します。

(写真は今年 3 月 4 日に行われた鎌倉 YMCA 主催のきらら鎌倉での上映会)

「ベこやの母ちゃん」自主上映会各地で

2023 年 7 月 9 日 (日)、映画「飯舘村 ベこやの母ちゃんーそれぞれの選択」が飯舘村で上映されました。地元飯舘村で上映できるのは初めてで、村の皆さんに観て頂けるのはとても嬉しくもあり、緊張もしました。企画してくれたのは、長谷川

花子さんをはじめ村の婦人会の方々と、村の広報誌でも PR してもらえました。上映会場は村の交流館である「ふれ愛館」。来場者はなんと 130 名でした。初めに杉岡誠村長からの挨拶があり、その後映画が始まると、あちらこちらでござと話をする声が聞こえました。私はそういう声が聞こえてくるとホッとす

杉岡村長（右端）、出演者の
信子さんも上映会に参加



るのです。なぜなら皆さんが映画の世界に入りこんでいるということなのですから。泣いている方もいました。映画が終わると大きな拍手が起きました。上映後の質疑応答では、涙声で話される質問者もいました。

7月30日（日）にはさいたま市で上映会がありました。主催の埼玉広域避難者センターの皆さんは第1回目の映画「飯舘村の母ちゃん 土とともに」のときから一番早くダイジェスト版の上映会を企画。劇場上映が始まるとポレポレ東中野まで応援に駆けつけてくれました。今回は「べこやの母ちゃん—それぞれの選択」を上映し、主催者の薄井篤子さんがトークの聞き手になってくれました。トーク後、津波裁判を描いた映画「生きる」の監督も見えていて、挨拶することができました。

10月15日（日）には、原発とめよう秩父人と古民家ギャラリーかぐやの方々主催による上映会と、ダニー・ネフセタイさんとのトークがありました。この会の1週間前、10月7日に中東のパレスチナで大きな事件がありました。ハマスがイスラエルを奇襲攻撃したことにより、イスラエルはガザ地区の爆撃に踏み切ったのです。数日もかからない間に、イスラエル軍はガザに地上侵攻し、パレスチナの民間人（女性や子ども）に大きな被害が出ています。秩父市に住む家具職人のダニー・ネフセタイさんはイスラエル空軍の元軍

人のために参加者からの質問が多くよせられトークが盛り上がりました。

12月9日の上映会は、鎌倉・岐れ路の会の主催で行われ、会場の鎌倉恩籠教会にはおよそ100人の参加がありました。上映後、歌手の新谷のり子さんとトークをし、福島とパレスチナへの思いを熱く語りあいました。



ここでは3つの上映会しかご紹介できませんでしたが、これ以外にも多くの自主上映会が現在も開かれています。

この映画「飯舘村 べこやの母ちゃん—それぞれの選択」は今までに2つの賞を頂いています。石垣島湘南国際ドキュメンタリー映画祭の受賞は、飯舘村の母ちゃんシリーズの映画では初めてだったのでとても嬉しかったです。またトロント国際女性映画祭は海外の映画祭で受賞したのは初めてで、特別の感慨がありました。いろいろな方から花束をもらったり、お祝いして頂きました。受賞式は私の体調が悪かったため、支援の会のメンバーのクアリー寛子さんに代理で参加してもらいました。詳しくは次頁のクアリー寛子さんのコラムをご覧ください)



第3回石垣島湘南国際ドキュメンタリー映画祭報告

『飯館村 ベこやの母ちゃん～それぞれの選択』は第3回石垣島湘南国際ドキュメンタリー映画祭で「ジャーナリズム特別賞」に選ばれました。その表彰式が2024年2月10日神奈川県横須賀市にある「マゼラン湘南佐島」にて行われました。

古居みずえ監督の代理として表彰式に参加しました。映画監督で審査委員の土屋敏男氏より表彰状をいただいた後、古居監督のメッセージを代読し、「まだ原発事故は終わっていない」ことを参加者の皆さんに伝えました。東京藝大教授で審査委員長の筒井武文氏からは次のような講評をいただきました。

「ドキュメンタリーの評価ポイントの一つは、取材者と取材対象者の距離感にあります。

監督により様々な距離感の作り方があってと思いますが、古居監督のインタビューは、取材対象者がとても自然体で、映像空間の中に溶け込んでいるような不思議な感覚を覚えました。約11年間にわたる信頼関係の構築があるのかもしれませんが、作品を通じて撮影初期のころからそのような感じがあり、それは監督の稀有な才能ではないかと受け止めております」。

これからも映画祭を通じて多くの方々にこの作品を観ていただく機会が増えることを期待しています。（クレアリー寛子）

映画祭の動画は以下からご覧になれます。

<https://www.nagashima-kazuyoshi.com/>

パレスチナのこと、これからのこと

私は1988年から毎年のように中東のパレスチナを訪れてきました。そのパレスチナは現在、大変な危機に直面しています。前述の自主上映会の報告にも少し書きましたが、2023年10月7日にガザ地区のイスラム組織ハマスはイスラエルとの境界を越え、イスラエル人1200人を死亡させ、240人を人質に取ったと推定されています。イスラエル軍はその攻撃を受け、ガザ地区に向け空爆を始め、10月半ばには地上侵攻に踏み切りました。圧倒的な軍事力を持つイスラエル軍は連日連夜、爆撃や銃撃を続け、5カ月の間に3万人のパレスチナ人がすでに犠牲にな

り、そのうち1万2千人以上が子どもだと言われています。ガザ地区には220万人が住んでいますが、そのうちの180万人が住居を失い、南部に避難させられ、封鎖のために食料も水も不足し、燃料もな





大地 自由 平和 夢
歌うことが希望をつなぐ

オレンジやオリーブが咲く豊かな大地があり美しい
山々の中で、知らぬ間に奪われ去られた者があ
りました。大なる悲しみが、ずんぞん積りてく
る毎日に、ここに、ある国が奪られ、
抹んでいた人々は絶望を感ずる。
涙を流すのを止む。

古居みずえ
第一回監督作品
GHADA
パレスチナの詩
Songs of Palestine

2008年11月15日公開
2009年11月14日公開

<http://ghada.jp>

い生活を強いられています。さらにガザ地区から一歩も出ることが出来ず、連日、イスラエルの攻撃を受けています。すでに餓死する子どもが出ています。これは国際法違反であり、最大の人道危機といえます。

私が初めてパレスチナを訪れたのは1988年7月です。30代後半に難病になり、一旦回復したのをきっかけに人生をやり直そうとカメラを学び始めました。あるNGO団体の主催する写真展で、パレスチナの子どもたちの写真を見たのがきっかけで、パレスチナに行きたいと思いました。1年後、パレスチナで第一次インテファダ(占領への抵抗運動)が起こり、行くことを決心します。最初の5年間はパレスチナの女性たちの写真を撮っていましたが、ジャーナリスト集団アジアプレスに所属し、ビデオを撮り始め、テレビ番組を制作しました。それをもとに映画を作っていくことになったのです。最初に制作した映画は2006年の「ガーダパレスチナの詩(うた)」です。難民第三世代のガーダという名の女性の結婚、出産、子育てを経て留学するまで、彼女の23歳から35歳までの半生を描きました。第二次インテファダが起こり、その中で

親戚の子どもが亡くなり、ショックを受けたガーダはパレスチナの原点であるナクバ(イスラエルの建国によりパレスチナの人々が故郷を奪われ、難民となった日)の頃の話祖母世代から聞き取り、本を出版し、後世に残そうとします。

この映画の主人公のガーダは現在、家族とともにカナダにいますが、今回のイスラエル攻撃で、彼女の家族、夫の家族もすべて家が壊され、現在はホームレスになっています。

また2011年には映画「ぼくたちは見たガザ・サムニ家の子どもたち」を制作しました。2008年から2009年にかけてのイスラエルによるガザ攻撃で、パレスチナの人たちがおよそ1400人(内子どもが300人)犠牲になりました。イスラエル軍は地上侵攻し、一軒の家におよそ100人のパレスチナ人を避難させ、翌朝、そこにミサイルを3発撃ち込み、中にいた30人近くのサムニ家の人たちが亡くなりました。このときに生き残った子どもたちに話を聞き、証言やメッセージを描いたのが「ぼくたちは見た」です。



封鎖されたまち
封じこめられない、真実
300人以上の子どもが犠牲になった
パレスチナ・ガザ地区への攻撃
子どもたちの目撃から戦争を描いたドキュメンタリー

ぼくたちは見た
—ガザ・サムニ家の子どもたち—

監督 古居みずえ (100%ドキュメンタリー)
脚本 古居みずえ、アリア・スルタン・アブ・ラッハ
2011年7月20日公開 (全国同時上映)
©2011年 古居みずえ・アリア・スルタン・アブ・ラッハ

この映画の通訳をしてくれた男性が今回の攻撃で亡くなりました。私と子どもたちを繋いでくれ、映画を作るうえで協力をしてくれた人です。彼がいないので子どもたちと連絡が取れません。北部から南部に逃げていると思いますが、どのようにしているのか本当に心配です。

10月7日の事件が始まって、多くのメディアがパレスチナのニュースを出すようになりました。しかし中にはパレスチナの歴史やイスラエルの占領について何も触れないメディア報道があることに驚きました。またパレスチナ問題など何も知らない世代の人たちの中にはネットニュースなどを見て、ハマスがテロリストだから今回のイスラエル攻撃は仕方ないというような意見を持っている人もいました。

私はこのままではパレスチナ問題の本質が理解されないままになると思いました。ガザがどういう歴史を持っていたのか、ガザはどんなところなのか、どんな人たちが住んでいるのか、ガザのことをもっと知ってもらいたいと思いました。ともかく一刻も早く停戦を求めるために、私の2本の映画「ガーダ」と「ぼくたちは見た」を期間限定で上映料を無料にし、緊急上映会の開催を呼びかけました。10月半ばから12月末までの間、100カ所を超えるところから申し込みがありました。その結果、およそ350万円の寄付金が、上映会主催者からパレスチナのNGOを通して、現地に送られました。人数は少なくとも、会場は小さくてもカンパは沢山集まりました。全国各地で映画上映があり、小さな会場から大きな会場までいろいろな人たちが加わってくださったことに感謝いたします。



昨年10月古民家ギャラリーかぐやでの上映会

私たちに出来ることは、まず自分にできることをしていくことだと思います。自分で発信していく、また周りの人に話すことで仲間を作っていく、仲間と映画を観る、上映会を企画する、署名活動をする、イスラエル製品のボイコット運動をする。様々にできることがあるはずです。まずは行動することです。

私は昨年ヘルニアの手術をしましたが、それが再発したのか、足の痛みとしびれに悩まされています。歩行が十分でないので、仕事を制限していますが、パレスチナ、福島自主上映会は続いています。ガザは今も緊急事態が続いています。この2本の映画の自主上映は今も続いていますので、ガザの事情を知りたいという方はぜひ上映会を開いて、映画を広めてください。そして私もできる限り、ガザの状況をお話ししたいと思っています。

一方、福島は3.11の原発事故から13年を迎えました。原発事故があったにもかかわらず、原発の再稼働、原発の運転期間の延長などが続けられています。避難者もいまだに2万7千人います。原発事故はまだ終わってはいないのです。原発事故を忘れないためにも、映画「飯舘村 べこやの母ちゃん—それぞれの選択」の上映を広げて頂きますよう、どうぞよろしくお願い致します。

海外映画祭にも挑戦中！

「飯館村 ベこやの母ちゃん—それぞれの選択」は、日本国内の映画祭だけでなく海外の映画祭にも挑戦中です。年間を通して世界各地の都市で開催されている映画祭の中から、女性や人権をテーマとする映画祭を選び、その中から古居みずえ監督が厳選した映画祭へエントリーしています。

近年、海外の映画祭への参加がインターネットの活用で容易になりました。米国に拠点がある「フィルムフリーウェイ」(FilmFreeway)というサービスを使い、手間のかかる締切・エントリー・審査発表などを一元的に管理しています。

うれしいことに今年1月、カナダのトロント国際女性映画祭 (Toronto International Women Film Festival) の審査で長編ドキュメンタリー部門の大賞に選ばれました。この映画祭は9月7～17日開催予定です。上映作品にもぜひ選ばれてほしいです。



※フィルムフリーウェイでの作品紹介
<https://filmfreeway.com/projects/2781326>

(クレアリー寛子)

「ぼくたちは見た」上映会予定

■ 4月6日(土) 15:40～東京練馬区

会場：ギャラリー古藤
練馬区栄町9-16

[アクセス地図 \(furuto.info\)](https://furuto.info)

入場料：1000円 (ただし14:00～ガーダと2本の場合は1500円)

トーク：古居みずえ監督

申込み：080-5488-0195(かとう)

主催：シネトークぼちぼち

■ 4月27日(土) 13:30～東京墨田区

会場：すみだ共生社会推進センター
(旧すみだ女性センター)

墨田区押上2-12-7

[施設案内 墨田区公式ウェブサイト \(sumida.lg.jp\)](https://sumida.lg.jp)

参加費：無料

トーク：古居みずえ監督

申込み：03-6233-7607 (月～金 9:30～17:00) またはパルシステム東京HPの「イベント」

<https://www.palsystem-tokyo.coop>

※受付は4月10日(水)12:00まで

主催：パルシステム東京

■ 4月27日(土) 18:00～横浜市

会場：かながわ県民センター
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

[交通アクセス - 神奈川県ホームページ \(pref.kanagawa.jp\)](https://pref.kanagawa.jp)

資料代：800円

申込み：090-7405-4276

<https://240427.peatix.com/>

主催：記憶の継承を進める神奈川の会

■ 5月3日(金・祝) 12:30と16:00

長野県佐久市

会場：エデュカルトリア佐久教育会館

佐久市岩村田 3098-1
[エデュカル・トリア佐久教育会館](#) -
[Yahoo!マップ](#)

入場料：無料 (カンパ呼びかけ)
トーク：古居みずえ監督 14:10～
申込み：080-6936-6311(いわした)
主催：ピースアクション佐久

「飯舘村の母ちゃんたち」上映予定

* 4月23日(火) 13:00～福島県大沼郡
「べこやの母ちゃん」上映会
会場：ファーマーズカフェ大芦家
大沼郡昭和村大芦字中組 1854
[ファーマーズカフェ大芦家](#) -
[Yahoo!マップ](#)

参加費：1500円
申込み：090-7664-7354(おおあしや)

* 5月9日(木) 神奈川県横浜市
「野草」映画祭 ガザ 水俣 福島…祈
り 福島 Day1 「飯舘村の母ちゃん」同
日2作品上映!!
「飯舘村の母ちゃんたち土とともに」
上映 12:30～
「飯舘村 べこやの母ちゃんーそれぞ
れ」の選択」15:15～
会場：地球市民かながわプラザ・映像
ホール
横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1
[アクセス | あーすぷらざ\(神奈川
県立地球市民かながわプラザ\)](#)
[\(earthplaza.jp\)](#)

料金：一般1300円 中・高500円(1
作品) 通し(2作品) 一般2300
円 中・高1000円

トーク：古居みずえ監督 18:00～
申込み：090-6483-5886 (ハマモト)
nob2851@gmail.com
※予約優先(受付4/6～5/3)

主催：キネマほうぼう

* 5月11日(土) 10:00～と14:00～2回
島根県 松江市
「飯舘村の母ちゃんたち 土とともに」
上映会

会場：松江市民活動センター(スティック)
松江市白潟本町43
[市民活動センタースティックビル](#)
- [Yahoo!マップ](#)

入場料：1000円
申込み：090-7503-5561(えすみ)
主催：「飯舘村の母ちゃんたち～土ととも
に」上映会実行委員会

* 5月30日(木) 13:00～埼玉県蕨市
「べこやの母ちゃん」上映会

会場：蕨市立文化ホールくるる
蕨市塚越 1-23-8
[交通案内 - 一般財団法人 蕨市施設
管理公社 \(warabi-fmpc.or.jp\)](#)

入場：無料
申込み：090-9146-0672(さかもと)
m.sakamoto@jasmec.com

主催：埼玉ぱるとも会

★あなたの地域でも是非上映会を
開いてください!!

通信発行：映画「飯舘村の母ちゃん」制作支援の会
〒169-0072 東京都新宿区大久保 3-10-1-834 Fax 03-3209-8336
メール iitateka311@bb-unext01.jp TEL 090-7408-5126

